

審議会等会議録

審議会等の名称	令和4年度第3回山口市環境基本計画策定部会会議録
開催日時	令和4年10月7日（金曜日）15：00～16：40
開催場所	山口市不燃物中間処理センター 2階会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	今村委員、豊田委員、樋口委員、福代委員
欠席者	坂本委員
事務局	環境政策課 江村課長、今谷主幹、谷口主幹、長尾副主幹、山本主任主事、児玉主事 株式会社エックス都市研究所 東所長
議題	1. 開会 2. 議事 （1）山口市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）中間見直しについて （2）今後のスケジュールについて （3）意見交換 3. その他
内容	次第に沿って以下のとおり進められた。 <事務局> 配布資料の確認 【課長挨拶】 <部会長> 部会長挨拶 会議内容について原則公開とし、議事録についても公表させていただくことを提案→了承 （1）山口市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）中間見直しについて <事務局> 資料に基づき説明 以下、各委員及び事務局の発言要旨

<部会長>

環境目標3の案に関しまして、御意見ありましたらお願いいたします。

私のほうから1つ質問があります。11ページに、進行管理指標というのがあります。市内の再生可能エネルギー導入量の目標値として、基準値と目標値が書いてあります。基準値、R4が204メガワットで、目標値、R9が230メガワットになっております。一方5ページに山口市の再生可能エネルギー導入目標の値があり、R9までに18メガワット相当の追加整備と書いてあるのですが、単純に合わせると、数字が一致しません。この数字の違いについてお聞きしたいと思います。

<事務局>

確かに23メガを加えると227メガになります。すみません。これはこちらの記載ミスでございます。

<部会長>

どちらを正しいとしますか。230メガを目標とするとなれば、逆算して、5ページの数字を変えるということになるかと思いますが。

<事務局>

5ページの数字が正確なものとなります。11ページの数値を修正いたします。

<委員>

まずは、二酸化炭素排出量の目標設定で、現行の計画もより野心的な目標設定になっていると思います。

5ページの、現在の状況の説明のところだと、現行計画で目標としていたものがなかなか厳しい。当市は厳しいですよという中で、ここであえて、より高い目標を設定しているということになるのですが、そこで、現行の取組に対して、どのような取組によって、高い目標の達成を目指そうというふうに、考えているのかというところを、御説明いただければと思います。

<事務局>

どこの自治体も、これまで2030年度に26%削減達成という国の目標があって、それに対して、まず、国の地球温暖化対策計画というのがありまして、それに産業部門でどれだけ減らしましょうとか、業務その他部門でどれだけ減らしましょうという取組が記載されてございまして、どこの自治体でもそれに沿って、計画を立てていくというような取組をされていまして。

ところが、菅首相になりまして、2050年にカーボンニュートラルとしまし

ようと。そのためには2030年に46%削減というのが出てきまして、どこの自治体も、どうやって積み上げていこうかというところを考えているところがございます。

その参考になりますのが、それに合わせて、国の地球温暖化対策計画が改定されて、例えば産業部門で、省エネによってどれぐらい減らすのかというところで、高効率の機器をいれましょうとか、あるいは、工場間でしっかりエネルギーマネジメントをしましょうとかというところに対して、そういうような対策をとって、具体的にはこれだけ減りますという数字がでてございます。

それを、山口市で実施した時にどうなのかということになります。

例えば、国全体の人口を山口市の人口と比べて、按分してどれだけ削減できるかというのを積み上げていくと、産業部門では何%減ります。というのが出せません。

同じように、運輸部門でも、次世代自動車は全部で何台普及します。これに対して、山口市の自動車保有台数と全国の自動車保有台数で按分をすると、これだけ、山口市では、次世代自動車は普及するので、これだけ減りますということで、まずは、国が示したものをベースとして、山口市で取り組んだ場合、どうなっていくかと。

そちらは、主に省エネの取組ですが、それによって部門ごとの削減率を減らしていくということになります。

加えて、電力会社がカーボンニュートラルに向けて努力をされておまして、電力を使うことによって出てくるCO2ですね、これが、1キロワット当たりの数字が、年々減ってっております。

2030年度に、中国電力は、2013年度に対して、排出係数を半分にしますというふうに言うておられまして、普通に今と同じように電気を使っている、2030年には半分のCO2の排出量ということで、こういった電力会社の動きも考慮して、こちらの削減に反映してございます。

加えて、吸収源対策ということで、山口市は豊富な森林がございまして、これの吸収量を積み上げていくと、山口市の削減に繋がっていくということになります。

これらを全部出し合わせて、それでもまだ48%削減には足りない、目標の48%削減を達成するにはどうしたらいいかということで、脱炭素先行地域で、地域新電力を構築されて、再エネの発電を市独自で実施していく。

その分、市の地域新電力等の取組によって、再エネが普及した分をさらに上乗せして、全体で48%達成していきましようというふうなところになってございます。それによって目標設定しているという状況でございます。

<委員>

ということは、今回の基本計画だけでは読み取れないという、いろいろなところで、全体として排出量の削減も算定をしているということですね。

<事務局>

そういうことになります。

<委員>

11ページに進行管理指標の一覧がありますが、一部、現行のものよりも少し高い設定になっているところもあると思うのですが、これもこの一部であって、これ以外にもたくさん、いろんな分野での削減というのが合計されて、トータルCO2の削減目標につながっているということですね。

<事務局>

はい。国が基本とする取組プラスアルファで山口市がどう取り組んでいくのかというところを中心に、ここに落とし込まれているというような状況です。

<委員>

次に、様々な主体の取組というのがでていると思うのですが、3ページの計画の目的のところをみますと、2行目のところに、市民、事業者、民間団体、市（行政）の各主体の役割を明確にし、とありますよね。

民間団体についての記述が、ちょっと弱いのではないかなという印象をうけました。

地球温暖化対策地域協議会ですかね。山口市も組織として存在することが、ところどころに触れられてはいるのですが、民間団体として、その組織をつくる、さらにほかの組織もたくさんありますし、例えば、山口県全体で活動しているような団体とかも、山口市のこういった対策にも関わってくるでしょうし。

というようなことを考えると、もう少し、表に出して、民間団体の取組というのも、明確にしたほうがいいのではないかなという気がします。

近年、いろいろな団体も、活動の重要性というのは、意識されてきていると思いますので、それを明確にして、そのような団体も、より積極的に活動していただくという、その内容をどう書くかということは、検討が必要であると思いますが、ちょっと今の書き方だと、もう少し書いてもいいのかなという印象を持ちました。

<事務局>

おっしゃるとおり、市と市民と事業所に関して、こうやって分けて明記しているのですが、団体のところについては記載がなかったということで、おそらくその事業者の集まりであれば、その民間団体で事業者様が集まってということで

あれば、事業者・民間団体というところでいいと思いますが、民間団体といっても事業者だけじゃなくて、幅広くいろいろな方々が集まっている民間団体というところもございますので、記載の仕方について考えたいと思います。

<事務局>

つけ加えまして、民間団体の取組を、もう少しブラッシュアップ、いろいろ情報収集をしまして、入れることができるものについては是非入れていきたいなと思います。

それで、今お示ししている各種取組も、ほかの計画の章のバランスを見ながら、今、たたき台としてあらゆるものを書いている状態ですが、そこら辺は精査させていただこうと思っております。

ほかの章のバランスも見ながら、そちらについても整理していこうというふうに考えております。

<委員>

適応策についてですが、前半部分がいわゆる緩和策、次が適応策となっておりますが、ぱっとみた印象ですが、緩和策、適応策が、並列で書かれているような印象を受けるのですが。まずは、できるだけ緩和策をとるとというのが、前提だと思います。

まずは、いろいろな問題が起こらないように未然に防ぐような対策をとる。でも、既に、いろいろな問題らしきものが起きているし、今後さらに、いろいろなことが起こることも懸念されるので、適応策もしっかりと考えなければいけないと思います。

その辺りの、緩和策が重要ですよというところが、ちょっと弱いのかなという気がしまして、緩和があって適応というように捉えられないかなという気がしましたので。

その辺りも表現ですね。13ページを見ますと、引用されている表1のところに、言葉で、その辺り説明はされているのですが、右の図の下に、最大限実施しても避けられない部分に対しては、というような記述があるのですが、本文の中でも、少し緩和策をしっかりやるということ、記述された方がいいのかなと思いましたが、御検討いただければと思います。

<事務局>

はい、ありがとうございます。

<委員>

全体的にいろいろなものを並べているみたいな話がありました。確かに、たくさん書いてあって、これを見て、市民の方が何やったらいいのかというのは、ち

よっつつかみづらいというのは、正直な印象です。

事業者にしてもそうですけども、何かもうちょっと、山口市の特性を踏まえて、ここを重点的にやりますといった、強弱があってもいいのかなという印象をうけました。

最後の脱炭素先行地域づくり、これが、採択されるかどうかは分かりませんが、採択されなかったとしても、進めるという意志を、是非、ここで示していただければありがたいなとは思っています。

どのように書くかは考えないといけないとは思いますが。そんな印象を持ちました。

<事務局>

おっしゃるとおり、いろいろなことを詰めるだけ詰めて並べているというような取組もございますので、今、山口らしいもの、特徴あるものを、厳選するなりして、もう少し市民の方に分かるように、そういった整理をさせていただこうと思えます。

次に、先行地域の取組ですが、先行地域の選定については今月末が公表予定です。我々も、選定結果に対する評価委員の皆様の評価というのも出てきます。

選定された時はもちろん進めていくことになるわけですが、残念ながら落選した時も、先行地域に落選した理由なり、講評を評価委員会からいただきますので、その辺も踏まえて、次の手をうっていき考えでございます。

いずれにいたしましても、この取組というのは、落ちたらやめるという、もちろんそういうわけではございません。

落選したとしても次の応募ももちろんございますので、そちらにチャレンジして行きたいというふうに考えております。

<委員>

市民の取組というところをみているのですが、私達も啓発をしているので、ライフスタイルの転換のところは、具体的に書いてあって、なるほどなと思えました。

ただ、自転車とか公共交通を利用しましょうとか書いてあるのですが、山口市の場合、もっと環境整備をしないといけないのかなと思えました。

それと、あと太陽光発電システムを導入しましょうとありますが、一度設置したら、永久にそれずっと使えるわけではないですよ。

これがきっと廃棄物になるわけですよ。そのところを山口市はどういうふうに考えているのかということもお聞きしたいと思います。

<事務局>

確かに、太陽光発電設備が最終的に廃棄物になるというところは、今回の実行計画区域施策編の中のいは、今からどんどん進めていくというところを書いてございます。

廃棄物処理の関係で言うと、国のほうでも、そこは課題認識されていて、いろいろ議論がなされています。

そういう中で、そういったところをしっかりと注視しながら、市においても、そういった普及啓発というか、市民の皆様、事業者の皆様知ってもらおうという取組は、今後やっていかなければいけないと考えております。

ただ、今回、環境目標3の中では、進めていくところを記述しているということであって、こちらには書き込んでありませんが、もう一つの課題として捉えております。

例えば、ほ場に太陽光がいっぱい設置されてあるとか、そういったところも、いろいろな面、悪い面あるというところで、いろんな御意見いただいていますので、そういったところはしっかり、もう一つの環境施策として考えていかなければいけないという認識でおります。

<委員>

全体的に書いてあることはいいのですが、根本的な考え方として、ライフサイクルを通じて、二酸化炭素の排出が少なくなるようなことを考えていかなければいけないわけなので、その辺の根本的な考え方を入れたほうがいいのではないかと思います。

具体的に、こういうことがあるということは、たくさん書いあって分かりますが、根本的な考え方は、いろいろな物とかサービスのライフサイクルを通じて、二酸化炭素の排出を削減していく、温室効果ガスの排出を削減していくことなので、今、使っているものであっても、自分の行動の仕方によっては削減できるし、新しく購入するものを使っても、そもそもの排出が少ないものを選ぶというのも当然あるし、製造から廃棄までを通じて、排出が少ないものを選んで、しかも、排出が少なくなるような行動をとっていく必要があるということ、どこかに書いておく必要があるのではないかなと思います。

<部会長>

他の委員の方が言われたことも勘案しつつ思いますが、やはり、山口市らしさみたいなものが、もうちょっと出たらいいのかなと思いました。

最後のページの絵があって、これはやらなければいけないこと全部書いてあるのですが、とても山口市に見えないなと思いました。これを見ると平均的なというか、どちらかというと東海地方の都市がこのような感じかなという感じがします。山口市らしさをお伝えできたらいいというふうに思いました。それがあると、ここで書いてあること具体性を帯びるのかなと。

言われたように、太陽光は、平均的にどこでも使うエネルギーとして、基盤となりますよね。

あと、バイオマスの話が出ましたので、それであれば山のほうからエネルギーを持ってきますとか、森林が吸収源になっていますとか説明があると、分かりやすいと思います。

今回、計画では中心市街地と湯田が中心になるので、絵をかくのが大変だと思いますが、中心市街地と湯田を中心としてというイメージがあるといいというふうに思いました。

先ほど太陽光の話が出ましたが、太陽光を導入する場合には、既設の屋根に載せるというやり方と、新築のときに導入するというやり方がありますよね。

何を言っているかということ、導入件数の見積りですが、その辺り、何か根拠を持って考えていただきたいと思います。今4割ぐらいの家が新築時に太陽光パネルを同時に設置していますが、例えば建て替えをずっとやっていったら自然にこの数字になりますとか、既設の屋根に載せるとなると荷重の問題とか、角度の問題で無理とか、そういった根拠にもとづく予測があるといいかなと思いました。

例えば、東京であれば、新築住宅には100%載せることにしている、100%入れたらどうなるかとかですね。その辺があると、この達成目標、リアリティーがどのぐらいなのかということが分かります。

既に6,000件近くあるということで、今後倍にするに当たって、相当余地があって、少しの努力で広がるのか、相当な努力が必要なのかという、そのあたりが、バックデータとしてあっていいかなというのは私の思ったところです。

<委員>

住宅の太陽光はいいと思うのですが、農業政策とも関わるので入れられるかどうか分かりませんが、ソーラーシェアリングもあります。

山口市は、農地もたくさんありますので。しかも耕作放棄地もどんどん増えている状況なので、ソーラーシェアリングを増やしていくみたい。そういうところも、もしかして、入れられるのであれば入れた方がいいのかなと思います。

<部会長>

今おっしゃった話の関連でいうと、事業者のほうに入れるのか市民のほうに入れるのか分かりませんが、営農型とか、ここにはっきり書くと結構大変ですが、そういう、次々出てくる技術を取り入れて、そういった市民の取組なり事業者の取組で、展開していきましょうという話を入れるという手はあるかなと思います。

<事務局>

国のほうもソーラーシェアリングも推進していますので、委員言われたように、技術革新的なものがないとカーボンフリーというのは達成出来ないと思いますの

で、その辺を整理させていただこうと思っております。

<部会長>

宇部市はコンビナートがあるので、必ずCO₂が排出されるんですよ。それに対して、山口市は重化学工業的なものがないので、山林が吸収源、営農型太陽光発電がプラスマイナスゼロ、むしろマイナスになるかもしれない、というような野心的なことが示されていてもいいかなと思います。そうすると48%削減にとどまらず、プラスアルファの部分を使うこともできるかもしれないと思います。

<委員>

デジタルトランスフォーメーションの話が、実際、書いていなかったと思うので、もし、それによって、二酸化炭素の排出が少なくなるような取組ができるのであれば、そういったものも入れていただくといいかなと思います。

<部会長>

今のご発言のついでに言うと、中山間地支援や買物弱者支援みたいな話がありますよね。山のほうから街まで下りてくる場合は、結局車に乗ってCO₂を出してしまうわけですよね。移動販売車が行って、商品を販売するほうがひよっとしたらCO₂排出量が低くなるかもしれません。また、DXを活用すると、無駄な配達とか移動が減って環境負荷が低くなるかもしれません。

最近、GXとDXを複合的に扱うことをやっていますので、先ほどの営農型太陽光発電みたいなイノベーションを入れる話やデジタル技術の活用を図る話を含めてカーボンニュートラルを推進するという手はあるかなと思います。

<事務局>

市としても、デジタル、DXの推進をもちろん進めております。DXというものが出てきておりますので、どのような取組ができるか、必要性はこちらも認識いたしておりますので、整理させていただきたいと思います。

<委員>

私、よく知らないのですが、7ページの、市民の取組の製品の選択の2つ目で、高効率給湯器、高効率照明、省エネ型浄化槽とあるのですが、これは、市民の方からして、これが高効率であるとか、これが省エネ型であるとかを判断する、そういう指標というのはあるのでしょうか。

<事務局>

なかなか、その指標というのは具体的には難しいと思いますが、単純に、照明でいけばLED。あとはエコキュートであったり、そういう、エコな製品というのは出てきますので、生活していく中で、もうそろそろ使えなくなったねと言っ

たときに普通に買えば、もうだいたいその高効率なものが出てきているという、そういうイメージで考えておりますが。

エコ製品とかそういったシールもついていたたり、何かそういうのがございますので、そういうので判断をしていただくことになろうかと思えます。

<委員>

効率給湯器といった場合、エコキュート、イメージとして、エコキュートですが、太陽熱温水器は入るのですか。

太陽熱温水器というのは、意外と効率がいいので入れておいた方がいいのかなと思います。どうしても、太陽光パネルの設置、そのパネルの設置のほうが、前面に出てしまって、最近は少ないのですが。

<部会長>

太陽熱温水器は価格も相対的に安いですし、屋根面積も取らないので良いと思います。投資回収年数も短いです。太陽熱温水器を復活させるというのも手かなと思います。

太陽熱温水器を載せたまま壊れて放置という家がよくあるのですが、あれをリプレースするだけで相当なものになると思います。高効率給湯器、高効率照明、プラス太陽熱利用を将来像に入れてはどうかと思います。

<委員>

太陽熱だと、屋根の上ではなくて、空き地とか家の庭とかでも、すごく進化しているので、実は私も考えているところです。

<部会長>

太陽光に比べると、太陽熱温水器はすぐに投資回収できるんですね。数年間で。10何年というレベルじゃないです。

どちらかというところ、太陽熱温水器のようなものが、都市部に比べると、山口市の特徴になるかもしれないですね。都市部は庭がそもそもないですから。先ほどの営農型太陽光発電についても土地がないとできないわけですから、大都市と山口市の大きい違いはそういうところに現れるのかなと思いますね。

<委員>

9ページで、製品の選択とライフスタイルの転換というところがあるのですが、例えば電気の購入先を選ぶというのは、最近できるようになっていると思うのですが、再生可能エネルギーによる電気を積極的に購入するというような取組もできるのかなと思います。

省エネにつながるサービスの選択というのはできるのかなと思います。

最近、そういう電力会社が破綻するということを聞いているので、今のタイミングでここに書いていいのかどうかというのがありますが。

<事務局>

確かに、おっしゃる通り、山口市は、脱炭素先行地域で、地域新電力を計画しているので、そういうところから変えましょうということをおの中にしておく、脱炭素先行地域の取組とつながってくると思いますので、検討してみたいと思います。

<事務局>

電気料金というのがありますが、再エネ由来の電力を利用することでゼロカーボンにどんどん近づいていきますので、今、中国電力様が主にやられている電力供給の排出係数に比べて、地域新電力会社は、ほぼ再エネを活用するというような趣旨でございますので、おっしゃるように、再エネ由来の電力の利用拡大というのは市としても是非やっていきたいと思っております。

<部会長>

最近、新電力が大変なのは、多くの新電力会社が自分で発電しているのではなくて、安く調達して売るという方式でやっていることで、購入価格が高騰して調達が出来なくなってきたということが原因ですよね。

だから、これから、地域新電力をやるとしたら、自前の電源を持っていることが、多分、1番必要なことになると思います。

今まで新電力は電力を安く買えるという経済性が、大事だったのですが、これからは同じ値段でCO₂排出係数が低い電気を供給するとか、そういうことが重要になるのではないかなと思います。

<事務局>

おっしゃる通り、山口市が考えている地域新電力会社は、こちらの清掃工場の廃棄物発電を主な電源として、安定電源とすることで計画しております。

おっしゃったような経営が厳しいところは、市場から電力を買い取るという、そういうところで、電力金額が高くなって逆サヤになっているとか、そういった話がございますので、設立を考えております地域新電力会社も、経営体力に見合った経営をしていきたいと思っておりますので、市民の皆様にも安心して選択をしていただけるのかなと思っております。

<部会長>

そういう意味では、電力が高いこの時期にスタートするほうが、むしろ新電力設立には良い時期かもしれません。よろしく御検討ください。

<委員>

事業者の取組のところに、例えば、R100の宣言を推進するみたいなものがあるといいのかなと思います。あと、これも事業者になるかと思いますが、適切な森林経営の推進みたいな、そういうところも、入れておいたほうがいいのかなと思います。いかがですか。

<部会長>

森林経営関係は、山口市ではどこが担当なるのですか。

<事務局>

担当としては農林整備課になります。

<委員>

製材とかをするのは会社ですが、森林組合とかとの連携は、一応事業者ということにして、関係ありそうなところに聞いてみるのもいいのではないかと思います。

<事務局>

今回、いくつか事業者さんにもヒアリングさせていただいたのですが、市としてそういった吸収源の充実で、植林とかに取り組むのであれば是非協力したいと言う御意見をいただいておりますので、是非、今アドバイスいただいたことについては、記載していきたいと思います。

<部会長>

適切な森林経営は温暖化対策の適応策と関係があると思います。自然災害防止になるので、自然災害対策のお金が浮きますよね。

山の世話をすると、土砂崩れが減るということを念頭に置いて、地球温暖化防止かつ、自然災害の軽減を目指した適切な森林経営を目指す、そういうことが示されると良いと思います。

<委員>

ゼロカーボンシティプロジェクトというところで、地域新電力のお話を聞いてすごいなと思いましたし、実現出来たら素晴らしいなと思っております。

<部会長>

脱炭素先行地域に選定されるかどうかで文面が変わるということですが、地域新電力とか、太陽光発電とか再生可能エネルギー設備の整備みたいな部分は、選

定されるされないにかかわらず、中核に据えておくべきところだと思います。選定結果次第ということはあると思いますが、それはあまり変えないでいただきたいと思います。

もし、芳しくない結果になっても、今後はおそらく新電力を既に持っているかどうかということが、選定の基準になると思います。地域新電力はいずれにせよ、やらなければならない話だと思います。

<委員>

これがあると採択されやすいかもしれないですね。

<部会長>

市長さんが、ゼロカーボンシティ宣言をされていますから、この軸は変わらないと思っています。どうぞよろしくお願いします。

<委員>

何かこれまでになく、山口市の本気度みたいなのが、伝わってくるかなという感じを受けました。

<部会長>

太陽光を載せるのは割と当たり前になってきているので、地域新電力みたいに、はっきりとしたプロジェクトがあるといいと思います。

あと、ここに書いてある中心市街地や湯田温泉パークのようなシンボルになるものが、もっと前面に出てくるといいのではないかと思います。

<委員>

湯田温泉パークは、ある程度、計画が進んでいると思うのですが、この再生可能エネルギーの導入というのは計画に入っているのですか。

<事務局>

現状としては、太陽光発電設備の設置と、湯田の温泉熱、エネルギーまで活用できるようなパワーはないので、床暖房レベルになるのですが、そういった地域の特性、湯田温泉の特性も加味した形で考えています。

こちらは先行地域に選定される、されないにかかわらず、そこら辺は組み込んでいる状況でございます。

<部会長>

せっかく加熱したお風呂のお湯をそのまま捨ててしまうともったいないですね。排熱再利用、例えば、床暖房などを考えていただければ、と思います。

湯田温泉というか、山口市らしいエネルギー活用プロジェクトが前面に出るといいですね。

<事務局>

山口らしさが伝わるような図についても再検討してみます。

<部会長>

パーツはいいので、山口らしさがでるといいと思います。

取りあえず、御意見がひと通り出たと思いますので、次の議題にうつらせていただきたいと思います。

(2) 今後のスケジュールについて

<事務局>

資料に基づいて説明

(3) 意見交換

<事務局>

現在、山口市一般廃棄物処理基本計画のほうも中間見直しを進めておりまして、その中で、様々な御意見をいただいているのですが、この度の計画の重点プロジェクトにおいて、プラスチック資源循環促進プロジェクトというものがございます。

お示ししている重点プロジェクトとしては、プラスチック製品の分別であるとか、リサイクルの取組の検討といったことだけを載せております。

そういう中で、委員さんのほうから、そういったことについて、しっかり周知を図って、是非進めていただきたいというようなこともございまして、そういった取組について、こちらの重点プロジェクトのほうにも加えたらという御意見がございました。

それについては、次回の策定部会で、またお示ししたいと考えておりますが、これまで、3Rの推進、促進については、ごみ分別アプリなど様々な媒体を通じて普及啓発に努めておりますが、そういった取組による普及啓発の強化であったり、先ほどちょっと御議論ありました、新たなデジタル技術の活用などによるさらなる普及啓発であったり、この度、株式会社伊藤園様と、仁保の日本果実工業株式会社様と連携協定を結びまして、市民の皆様から、分別して出してもらっているペットボトルについて、これまでは繊維等にもリサイクルをして、その後は廃棄というような流れであったのですが、今回の協定によりまして、半永久的にペットボトルを、ペットボトルにもリサイクル、そういった取組をしようと思っております。

いわゆるペットボトルの水平リサイクルになりますが、そういったところをしっかりと市民や事業者の皆様にも周知を図ることで、一般廃棄物処理基本計画の中間

見直しとの整合を図っていく必要もあるのですが、こうした取組をしっかりと広報することによって、市民、事業者、市が一体となって取り組むための機運の醸成といった、そういったところについて、本文がいいのか、重点プロジェクトのところがいいのかというのはありますが、盛り込むことについて検討してみたいと考えております。

こちらについては、文面等は、審議会の中間報告にもできれば明記していきたいと考えておまして、その後、策定部会の皆様にもお示ししていきたいなと思っております。

<部会長>

ペットボトルの水平リサイクルは、今まで言われていて、なかなか、手つけられなかったところですよ。いよいよ本格化するというのは、非常に喜ばしい話なので、是非盛り込めるところがあれば盛り込んでいただければと思います。

部会が違ってでも、結局繋がっているものがあるので、ほかのところにも展開していただくと助かると思います。

<事務局>

本日いただいた御意見も含めて、これまでのものをひと通り整理したものをお示しして、次回は、答申案をについても御議論いただきたいと思っております。

<事務局>

本日は環境目標3ということで、こちらのほうから提示した内容が、総花的な内容でしたので、それに対して、いろんな角度から、貴重な御意見をいただきまして大変参考になりました。

本日の御意見を踏まえたうえで、もう1回見直しまして、また、よりよいものとして御提示させていただきたいと思っておりますので、それにつきまして御意見をいただけたらと思っております。

先ほど、地域新電力会社のことが出ました。委員さんからも、山口市の本気度を感じるという御意見をいただいたのですが、まさに、地域新電力会社は、第2回の応募をして、10月下旬以降に、国から結果が届くということになっております。現時点では、選定された場合を想定して、重点プロジェクトを示しているのですが、まさにこの地域新電力会社、この文言の中の中段にもありますように、市で、地域で生まれたエネルギーを地産地消という形の中で、現在、ここの廃棄物発電であれば、余剰電力を外に出ていた部分を、域内で循環していく、経済と環境の好循環、好影響をしていくことによって、地域課題の解決であったり、地域経済の活性化である地方創生へとつなげていきたいというところが狙いでございます。

ここの地域としては、先ほど部会長さんからもありましたが、商店街エリア、

	<p>いわゆる中心市街地を中心に、あと、湯田とか、そういったものも巻き込みながら、湯田温泉パークになりますが、そこを巻き込みながら行っていきます。</p> <p>補足といたしましては、この中心商店街をなぜ選んだかというところにつきましては、中心市街地の活性化として、第3期山口市中心市街地活性化基本計画というのがあります。</p> <p>そこを地域脱炭素の様々な取組が後押しをする、それによって活性化を早めていくというところがございます。</p> <p>中心市街地は、いわゆる商店街もあれば、住宅もあれば、オフィスもある、様々な都市機能を有しております。</p> <p>そこで、そういった取組が、モデル的に成功することによって、この中心市街地以外のところ、全域にわたって、様々な地域の特性がございますので、そちらのほうに 응용していけるというところで、この中心市街地を選んだところでございます。</p> <p>先行地域に選ばれましたら、着実にこの取組を進めて、今、図でお示しておりますが、こういった広がりができるような取組をしていきたいと思っております。</p> <p>その辺を、目指した計画にしていきたいと思っておりますので、また、いろいろ御意見等賜りたいと思っております。</p> <p>よろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。</p> <p>閉会</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度第3回山口市環境基本計画策定部会 次第 ・ 環境基本策定部会席次表 ・ 山口市環地球温暖化対策実行計画（区域施策編）中間見直し ・ 今後のスケジュール
<p>問い合わせ先</p>	<p>環境部 環境政策課 総務担当</p> <p>TEL 083-941-2175</p>